■中国：白鶴灘水力発電所の建設計画で 9 万人が立ち退き

2017 年 9 月 8 日付の報道によると、白鶴灘水力発電所（最大出力 1,600 万 kW）の建設に伴う住民の立ち退き計画が国に承認され、実施に移されることになった。白鶴灘水力は四川省と雲南省の境界に位置し、ダム建設による水没面積は 234km² で、地域の住民 8 万 9,000 人余が立ち退きを迫られることになる。うち 6 万 3,000 人は近隣の都市への移住を選択し、農業を継続することを選んだ住民には住宅とともに 1 人当たり 1 畝（ムー、約 6.67a）以上の農地が支給される。立ち退きに必要な資金は約 600 億元（約 1 兆 117 億円）と、発電所の総建設費の半分を占める。発電所が完成すると、ダム湖を利用した観光、物流業等への就業機会が生まれ、経済状況の改善が期待されている。